くりの記final

発行日 9月20日

No. 1 9

子どもはみんな「求めている

聴きました。N先生もこの夏、 た3人の少年の話をしてくだ かれたのですが、そこで出会っ 震災ボランティアで東北に行 N先生からとってもいい話を

を得てやってきたとのことで やっと 夏休み中なら」と許し 残る。』と一生懸命説得し、 बुं 。 きる何かをやらないと悔いが する親に対して写、自分にで まえが行かなければならない やってきたという子。何もお は、親の猛反対を押し切って ボランティアに来たという三 ことではない』と泣いて反対 人の少年に会いました。一人 親から離れて自分一人で

のことでした。 子。その子は現在不登校中と もう一人は九州から来た

年代の人がいたのですが、不 ボランティアにはいろんな

> き生きとしているのです。一 入って洗い流すのですが、そん をみんないつしょに風呂に 日働いてどろどろになった体 思議なことに、若い子ほど生 なとき

るのです。 と人なつつこく話しかけてく の ? ぼく、今、不登校だけど、9

というような話をとても明る 月からぜったいに学校に戻る く語ってくれるのです。」|

た。 求めているんだな。」というこ せんが、ただ、子どもたちは で、くわしい状況は分かりま とはひしひしと感じる話でし 立ち話で聴いたことですの

子がボランティア体験をとお して生きる力を回復してい ドロップアウトしかけている

した。

おっちゃんは、どこから来た でしょうか。

何かし か、自分が生きている意味って 本当にだいじなことって何 今、子どもたちの多くは、

きていることの意味」を再確 少年もまさにそういう子だっ す。ボランティアに来た三人の 陥ってしまっているといえま 認でき、それが す月から学校 体験をとおして 自分が今生 が、非行や引きこもりの形に ような気がします。その結果 たのではないでしょうか。 を見いだせずにもがいている この子たちは、ボランティア

く、そこに何があるのでしょう

しょう。 る人々の姿を目の当たりにし 死に前を向いて生きようとす に関わる中で、どん底でも必 て強く学んだものがあったで 被災地の人たちを助ける仕事 思うに、ボランティアとして

もみんなの役に立つ存在なん いうこともあったのではない だ」とという実感を持てたと また、一生懸命働いて自分

達成させたという話を聴きま

にもどる」という決意につな がっているのだと思います。

事実をいっぱい生み出せたこ で 私も泳げた!」ぼくも浮 けた!」という子どもたちの きると私は思っています。 ひとりの中につくることに尽 とはほんとによかったと思い よう」の具体的な事実を一人 わかった!できた!やってみ その意味で、9月の水泳指導

ということも重要です。 かった6年のR君を記録会後 の放課後に泳がせて、25 是 F先生が、プールに入らな 決して逃がさない」

やって自尊感情を取り戻させ ることの大切さを思います。 子どもたちの自尊感情を育て と崩れかけている子にどう むう、どうでもいいわ。」 どうせ、俺なんか・・・・・」 N先生の話を聴いて、改めて

をしています。

伝いをして2年のR君の指導

書きをマスターしような。」

す月中にはひらがなの読み

それは、今玉小が掲げている

度も良くなります。 と、少し日本語教室に来る態 算もクリアし、2けたの足し 立たずにひらがなの読み書き という目標で、いろいろ教材 さつできるようにもなりまし なってきました。 はマスターしました。 というときちんと立ってあい を準備しました。結果、半月 始めのあいさつ、するよ。」 そういうふうになってくる 苦手だった繰り下がりの計 、引き算ができるように

でありたいと願っています。 な事実がいっぱい見える玉小 わかった、できた」の具体的 のです。 教師の熱意が子どもを動かす 何とかしてあの子も」という

私も9月から、K先生のお手